時事新報

（毎年三百六十五日毎日發行の新聞紙ハ日本國中ニ唯時事新報あるのミ）

第千七百六十九號
明治廿年十二月十一日　日曜日
舊丁亥十月二十七日（庚、戌）
日出午前七時零一分　日入午後四時四十六分
月出午前二時二十八分　月入午後二時[illegible]
滿潮午前[illegible]　午後[illegible]
（西暦一千八百八十七年）

時事新報

西洋の風を模するより取捨する所あるを要す（前號の續）

在米國　高橋達

[illegible]本人の西洋に遊ぶ者年一年に增加して大小官吏[illegible]余り往き來れ其趣は殆んど頻繁と極めたりと稱するも可なり此の如く日本人が西洋に來遊して文明開化の至境と稱する[illegible]の土壤に移植する物を擇みあるやと窃に其有樣を推測するに一は以て西洋國の文を移して日本の不文を化せしめんとするの手段に外ならざる可しと雖も其取捨判斷を誤るの點に於ては間々我輩も憾慨なき能はず凡そ人事は何事に論なく總て表裏のある者なれば西洋今日の文明を取捨するにも是れを正面彼れは反面と能く實地を檢定して仔細に討究するなかる可らず日本ヨ在りて洋航歸りの人々が頻りに西洋の華美贅澤に心醉し日本ハ封建殺伐の餘風を受々て不文質樸殆んど野蠻の境に位するものなり、昔しならば兎も角も方今文明の世界に處して舊態を株守せんと欲するハ時勢不通の議論にして取るに足らず云々と冒頭より早既に奢侈を以て恰も文明の本色なりと爲し障て衣服ハ木綿にては面白からず食品も米穀菜類ハ淡泊にて滋養の實なく疊、障子の日本家屋ハ起居窮屈にして寧ろ衛生にも害ある可し其他曰く何曰く何と凡そ社會改良の手段として提出する所の議論ハ皆奢侈贅澤と漫然たる江湖の人ハ驚むるの種子たらざるなし我輩の敬服せざる所なり、斯く言へバ我輩ハ特さらに西洋の文明に敵意を表し心中日本の改進を悦ばざるやの疑ひもあらんなれども元來我輩の精神ハ根底より大に國ハ富強と扶植して日本と異域の文明に致さんとするの點に在る者なれば唯ら外面より西洋の開化に心醉て實文華に然りハ其實の實なる者と誤解して無責任に社會の改良を圖んとするの手段は寧ろ取らざる所あり日本に於ては近來頻に社會改良の論行はれ衣食住生計の物の數學や更改め或は演劇改良或は男女交際等孰れも西洋の風に模倣せざる者れ由にて我輩とても決して之を咎むるに非ずと雖も成るならば此等の事は暫らく後日に讓り、差當り先づ官民一致して務て節儉を行ひ一文にても貯蓄して資本を作るの最も大切なるんと信ずるなり聞く所に據れバ日本の民力は數年引續ての不景氣に昨今倍々疲弊を極め近來公賣處分を受るる者の人員三十萬に及びふりと隨分聞くも氣の毒ある話しにして今の策を遂すに唯節儉以て無用の財を有用に轉ずるより外ある可らず特ヨ官邊の事業に於ては其擧否の善惡は姑らく擱き費用ヨ自から愼節ある所もあるは文明諸國の政府と雖も免れ難き次第にして異實國民の不實より論ずる時は政府は成るべく無用の財と節えて民力に餘裕あらしむるの策最も要用あるが如し驚馬は素より駿足に傚ハず共歩甚だ緩慢あらんと雖も適んで擁ひ所と知らずんば千里と行くも難きに非ず日本如き小國の計を爲すには何は措き節儉の一事最も肝手麵はしの鐵なる可し

錄踏夜會の事の如き隨て我輩の意見なきに非ずと雖も暫らく言はず唯日本に於て近年各地とも洋風ヨ習ひ避暑地公園地等を各所に設け休暇日には人民を率て之に出入遊樂せしむるの旨趣なる由結構なれども借人民平生の勞役は從前に倍蓰して果して公園地の必要と感ずるの度に過ぎたりやと尋ぬるに獨り然らざるのミあらず其勞役は別に加はる所あくして唯公園遊觀ハ場所あるを以て偶然これに遊んで不時の散財を促さるゝの奇談は莫かる可んや英國の如きは各地の都府到る處熱鬧あらざるなく煤烟天を蔽ふて藍備鬧く、空氣亦殆んど窒塞して人の呼吸に堪へざるの有樣なれば一週一度公園地に逍遙して新鮮の大氣に浴するの快樂推して知る可し然るに其公園地ハ東京にて申せば麹町番町とか本鄕高臺とか云ふの邊に較べて更に劣等なる者あれ共人民之備は斯る所に徘徊して無上の愉快を感ずる所以ハ實に平生勞働勉強の非常あるに外なる可らず日本人の勞役を英人に較べては實ヨ甚だ少小なる者ヨ之て其居住地の空氣の新鮮あると亦同日の論に非ざれば公園地の設けの如きハ之を他日に讓りても不都合はなからん唯今日に必要あるは日本の人に節儉の風を勵ますと與に共ヨ一層勉強耐忍の精神と振起せしむるの一策なるべし兎角日本人ハ懶惰にして安逸温柔を事とすれども英國人の活潑にして少しも外物を畏れざるの勇氣に至りては我輩只管感服に堪へざるなり倫敦の市中に於ては冬間如何ある寒氣たりとも一切襟卷を用ひざるは日本人の知る所ならんと雖も此風習は獨り英國南方の地にのみ限るに非ず蘇格蘭の山中などは爾かも此國の北端にして北緯六十度の邊に在れど氣候の嚴なると勿論なれども兒童ハ一般に脚を暴して寒風に立ち、兵隊の如きも膝切りのヅボンにて寒氣凛烈、操練に從事するの其趣は觀る者として思はず其勇に感服せしむ、抑も健康ハ運動に在りと云ふの格言は英人の平生に守る所の法則にして勞逸兩つながら體の運動を忽にせざるは即ち其勉強の風を致しふるの由縁にして我輩は斯る事例を見るに附け聞くに附け日本の文明は決して文弱に流れしむべからずとの所感一日も消せる所を覺えざるなり

（未完）

官報

○内務省告示第八號
明治二十一年第一回醫術開業試驗執行ノ地方及ヒ其期日左ノ通相定ム
但本回ニ限リ出願期限ヲ明治二十一年一月三十一日迄延期ス
明治二十年十二月十日　内務大臣伯爵山縣有朋

東京府下	東京	五月一日
京都府下	京都	五月十五日
長崎縣下	長崎	六月十一日
宮城縣	仙臺	六月十一日
石川縣下	金澤	五月一日

○軍艦發着　高千穗、海門、葛城の三艦は孰も一昨八日吳港に向ひ馬關拔錨日進艦は同日品海へ投錨露國軍艦ブヨトリヤンスコイ號は去月三十日横須賀拔錨せり（海軍省）

○筑波艦帆航行　少尉候補生實地練習のため九月四日品海を解纜せる筑波艦（艦長海軍大佐野村貞、航海長海軍大尉松本和吉）は去る十月八日を以て桑港に着せり桑港に帆航せし艦船未だ嘗て此の如く迅速に到達せるものあらざるあり今艦長海軍大佐野村貞より海軍大臣に屆出でたる書中より其航路に關する部分を拔抄し航海者の參考に供す（海軍省）

本邦ヨリ米國桑港ニ至ルノ航路三線アリ曰ク「グレートサークル」曰ク「コンポジットグレートサークル」曰ク「ロンバスコース」是ナリ而メ前ノ二航路ハ航路近ク風潮共ニ順ナリト雖モ獨リ氣候ニ至リテハ取ルヘカラズ「ロンバスコース」ニ於テハ之ニ異ナリ航路遠シト雖モ氣候穩和ニメ風潮メ利アリトス今回我艦ノ故ラニ航路ノ遠キ「ロンバスコース」ヲ取リタルハ彼ノ氣候ノ不良ナル寒威ノ強キ或ハ疾病ノ釀生セシコトヲ恐レ又練習生ノ爲ニ天測實驗ノ不便ヲ慮リ日數ヲ短縮センヨリハ寧ロ衛生上ト練習上トノ便益ヲ思ヘバナリシ然ルニ遂ニ艦後初二日ヲ除クノ外風概ネ順ニシテ力アリ氣候和ニシテ寒温宜キニ適シ僅ニ三十五日ニシテ桑港ニ安着スルヲ得タリ又好結果ナラスヤ蓋シ之ヲ從來諸艦船ノ同區間ヲ航スル者ニ較スル「グレートサークルセイリング」法ニ依リタル者モ此ノ如キ迅速ナルハ稀ニ見ル所ノ者ト云フ

○山梨縣蠶種檢査　山梨縣管下本年蠶種檢査は去る十月一日より着手し十一月二十三日を以て結了せしが其施行しふる檢査枚數及成蹟は左の如し（山梨縣）

種類	施檢枚數／蛾數	成蹟 合格	成蹟 不合格
普通製蠶種（施檢枚數）	四、五四八	三、三七〇	一、一七八
[illegible]製蠶種（施檢蛾數）	一三、九七一	九、九六三	四、〇〇六

○佛國將來の海軍　佛國の海軍は來年一月一日に於て左の如くなるべし即ち新式の一等軍艦にして十九ノットの速力を有する甲鐵艦六艘、二等甲鐵艦十七艘、甲鐵巡航艦十四艘（十五ノット）、通報水雷艇（十八ノット）八艘、海岸防禦甲鐵艦八艘、太洋水雷艇九艘、一等及二等水雷艇八十艘、通報及運送艦五十六艘、砲艦四十六艘と有するに至るべし千八百七十二年佛國軍艦の價額は二億二千三百萬法ありしが現在の軍艦及本年中に竣工すべきものゝ價額と合算すれば三億九千二百萬法に達するの豫算なり但し佛國が最近の五年間に海軍の維持及擴張のために費しふる金額は四億七千五百萬法ありと（本年十月十三日獨字官報）

○露土戰爭中露國政府の臨時支出額　目下露國陸軍監督本部に於ては千八百七十七年より七十八年に亘りたる露土戰爭中露兵糧食史の編纂に必要ある材料の調査中なるが該戰爭中露國政府より支出したる臨時費額は都合十億三千九百萬留（一留は凡そ五十錢）なりしと云ふ（本年十月十六日露國ノウオエ ウレーミヤ）

○世界諸國蒸汽機關及蒸汽機關車馬力の數　在伯林統計局の調査する所ヨ據れバ現今世界諸國に於て使用する蒸汽機關は四千六百萬馬力、同蒸汽機關車は三百萬馬力ヨして內蒸汽機關の馬力を國別それば北米合衆國は其第一に位して七百五十萬馬力、英國は第二に位して七百萬馬力、次に獨逸國は四百五十萬馬力、佛國は三百萬馬力、澳地利は百五十萬馬力の機關を有せ但し目今使用する蒸汽機關の五分四は此二十五年間に製造せられふるものありと云ふ（本年十月二十八日英國工藝協會雜誌）

（以上本年十二月十日官報）

雜報

○歐洲近報　左の歐洲電報はシンガポール新聞に記載したるものなり

グラスゴー大學は總長　ソルトン伯は大法官の議決投票によりて總長ヨ選らまれたり（倫敦十一月十二日發）

大藏大臣の演說　大藏大臣ゴッシェン氏ハアルトンの演說に於て英國の歲入及び財政の現況は數年前の有樣に比すれバ大に回復しふりと述べふり（倫敦十一月十八日發）

バーカー氏　大佐ヲアレンサン　バーカー氏はフレルキャバーに於て熱病[illegible]
ブーランゼー將軍[illegible]
十一月十五日發）

伊太利兵　四千餘[illegible]
に向け出帆せり（[illegible]

○[illegible]府の流行
に同府にて衣服其
に人々の知る所な
のにて先づ官吏の
の發書には之と欠
hotel（旅館）とオー
をハップアント（
市人ハ之を眞似し
は田舍漢が京大坂
眞似して勢を利さ
流行物を有增し衆
い甚だ狹くして僅
り稍廣く開けると
顯すに至りたり尤
と一知るべし襟は
所に小さき三角の折
廢り襟飾の形も變
紐とあし之を前に
垂るゝもあり袴は
此頃は亦太きを貴
に兵卒の穿きたる
甲掛の地ハ夏は
ヨ由て進ひあるが
て其背色を存せし
川ひ柄の頭に金銀
ハ全く廢り帽子は
才子粹客の仲間に
けて着用するもの
を極めたるものあ

○電信局設立請願
今度同驛へ電信局

○支那輸出木材
過般見本の爲め建
同店の櫻井六氏を
賣捌んが爲め昨今
於ては頗る日本材
材ハ引札と見做し
多額の木材を廻送
日向宮崎地方より
縱材等を搬送し尙
伐採せし土地よ

○品川硝子製造所
係り爾後元工部省
村勝三兩氏へ貸渡
り共同西村氏一人の
も即時完納して今
同所にて製造する
にして本邦にハ其
と云ふに寄され其
なれば製品の質、
廉ある能ハざりし